

- 1 教育事業名 「のびのび自然体験 in とかしき」
- 2 ね ら い 体験活動を通して、母と子との絆を深め、子ども達のたくましい心と体を育むとともに、基本的な生活習慣、自立的行動習慣の確立につなげる。また母親については子どもの自己肯定感を高めるための子どもとの接し方を学ぶ。
- 3 期 日 令和7年10月18日(土)～19日(日) 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 沖縄県内の母子寡婦生活支援センター所属の親子15家族及び職員 50名程度
- 6 参加人数 13家族36名
- 7 参加者内訳 小学生18名、中学生3名、高校生2名、保護者13名
- 8 講 師
 - ワークショップ(座談会)担当
 - ・保里 恵利美 氏(ママの元気サポーター)
 - スノーケリング活動担当
 - ・森 有紀子 氏(ネイチャーワークス NPO海の自然史研究所)

9 実施プログラム

10月18日(土)		9:00	10:00		11:30	12:00	13:00		16:00	17:30	19:00	19:30	21:00	22:00
		受付 チケット 職員から配布 乗船	フェリーにて 泊港出航	海研場 移動	入村 オープニング	昼食	海洋研修 ・水泳・カヤック ・スノーケリング		本館 移動 入所体験 センター	夕食 ・ 入浴	ふれあい レクリエー ション	(親) ゆんたく会 (子) 創作活動	入浴 就寝 準備	就寝
10月19日(日)	6:00	9:00	10:00	10:30	13:00	14:30	15:30	16:40						
	朝食 清掃 清掃チェック	所内 散策	海研場 移動	野外炊事 (カレーライス)	クラブ 作成	清掃 エン ディング	渡嘉敷港 移動 乗船	フェリーにて 渡嘉敷港出航	とかしきにて 解散					

10 事業の様子



海洋研修(オープンカヤック)



海洋研修(スノーケル)



親子でレクリエーション



ワークショップ(親)



メッセージカード作成(子ども)



メッセージカード贈呈



所内散策



野外炊事



クラフト（貝殻フォトフレーム）

1 1 エピソード（参加者の声、アンケートより）

【参加者の声】

① 事業全体を通して

- ・親子の絆を深めることが出来た。
- ・とても満足しました。家族みんなで参加して色々な体験が出来て嬉しかったです。
- ・安全に対する声かけや見守りがきちんとされてたので安心して親子で体験を楽しむことができました。
- ・このような企画をして下さり、ありがとうございました。子どもが一番喜んでいて、とても貴重な体験が出来たと思います。
- ・今後も他の母子家庭のため、他の生活の苦しい家庭のためにも続けてほしいです。

② 海洋研修について

- ・海に入って遊ぶことが数年ぶりだったので子供がとてもうれしそうでした。
- ・母がスノーケルをしている時、子を安全に見守ってくれてありがとうございました。
- ・私では教えきれないスノーケリングや親子2人でのカヌー、とてもたのしかったです。

③ ワークショップ（母親対象）について

- ・自己をみつめて、ほめる毎日が続けようと思いました。
- ・自己肯定感を意識してこれからも過ごしたい。
- ・日頃忘れていたことを思い出すきっかけになり、良かったです。

④ 「メッセージカード作り」（子ども達から母親へ）について

- ・感動しました。お家に飾ります。
- ・子供になかなか母へのメッセージをもらえないので泣きそうになりました。
- ・子供たちの愛情が伝わり、とても嬉しかったです。

⑤ 野外炊事について

- ・3つの家族が協力できておいしいカレーが出来た。
- ・各自、自分の得意なことをやってくれておいしく早くできあがり最高でした。
- ・日頃、家では手伝いをさせるとイライラしてしまうのですが、ここでは優しく手伝いをさせてあげることができました。感謝です。

⑥ クラフト作成について

- ・海洋研修の時の写真を活用して思い出作りが出来ました
- ・海で拾った貝がらやサンゴがきれいにレイアウトできて楽しかった。

1 2 担当者所見

(1) 成果

今回の事業では、事業全体について全ての家族が「満足」または「やや満足」というアンケートの結果が得られた。コメントでも「親子で体験を楽しむことができた」「絆を深めることができた」とあり、おおむねねらいを達成できたと考える。親子での活動だけでなく、親のみのワークショップをプログラムに入れることで、子どもの自己肯定感向上に向けてどのように子どもと接すればいいのかを学ぶ機会を作ることができ、事業に深みが得られたと感じる。事業名にあるとおり、渡嘉敷島の素晴らしい自然を満喫し、親子で楽しくのびのびと過ごせたのではないかと考える。

(2) 課題

今回、船舶の遅れで予定した時間通りにプログラムを開始できなかった。このような状況でも柔軟に対応できるように、ゆとりを持った計画を行う必要がある。